

令和6年度

水に棲む生物でわかるやまなしの川

山 梨 県

目次

1	はじめに	1
2	水生生物調査とは	1
3	調査方法	1
4	調査地点	1
5	実施期間及び調査参加団体	1
6	調査対象生物及び水質階級の判定方法	2
7	調査結果	2
8	水生生物による水質の調査法	10

1 はじめに

昭和59年より実施してきた「水生生物調査」も、本年度で39回目を数えました。（令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症の流行により中止。）この間、小中学生を中心に延べ17,829人に参加いただき、参加団体は延べ782団体、調査箇所は70河川223地点（延べ1,136地点）にのぼりました。このうち、約3%の地点で継続的に調査を実施し、長期にわたる水質を把握することができています。

平成12年度に環境庁（現 環境省）と建設省（現 国土交通省）が合同で生物指標及び水質の判定方法を見直し、平成23年度に指標生物の再度見直しをおこない平成25年度から完全に移行したため、本県においても、平成25年度より、この新方式を採用して調査を実施しています。

本調査をとおり、より多くの県民の皆様に、川に親しみ、水質保全の重要性を認識して頂きたいと考えております。

2 水生生物調査とは

水の中にも虫の世界があります。特に川底に生息する水生生物は、過去からの長時間の水質状況を反映した結果でもあります。水生生物調査は、カワゲラ・サワガニなどの肉眼で見える大きさの水生生物（29種）を限定し、これらのうち、どの生物がどのくらい生息しているかを調べることで、水質の判定を行うものです。

したがって、この調査方法は、BOD（生物化学的酸素要求量）を測定するような理化学的な方法に比べて簡便であり、得られた結果は直観的に理解することが容易であります。

また、BOD測定値と水生生物調査結果を比較してみても、相関性があることがわかっています。

この調査は、県下の河川を網羅した広域調査であるばかりでなく、小中高生を含む一般県民の参加を得ることにより、参加者にとって、身近な河川の水質保全の必要性や河川愛護精神の重要性を再認識するための場を提供するという啓発的性格も持っています。

3 調査方法

「川の生きものを調べよう－水生生物による水質判定－」に準拠

（環境省水・大気環境局 国土交通省水管理・国土保全局 編 H24.3）

4 調査地点

1河川、1地点で実施

5 実施期間及び調査参加団体

この調査は、川底の生物が多数生息し、水温も比較的高い夏季に実施しており、近年は、特別活動のなかで、調査の実施を希望する小中学校が多い傾向にあります。

今年度は令和6年7月23日に、1団体、16人の参加がありました。（表1）

表1 調査団体と参加人数

調 査 団 体		参加人数	延べ人数	団体区分	調査地点番号
番号	団体名				
1	山梨市立山梨南中学校	16	16	中学校	312-1
合計		16	16		1(地点)

6 調査対象生物及び水質階級の判定方法

本調査は、河川の水質などの環境を反映する生物として、移動力の小さい川底に生息する水生生物を対象とし、このうち、各地に広く分布し、見分けやすく、環境指標性が高い29種類を指標生物としています。

調査地点の水質は、優占的に出現した指標生物（最も数が多かったものと2番目に多かったもの）に重みづけをして水質階級をもとめる「優占種法」により判定します。

水質階級の区分は、Ⅰ（きれいな水）、Ⅱ（ややきれいな水）、Ⅲ（きたない水）、Ⅳ（とてもきたない水）の4段階となっています。（p12「指標生物の図」参照）

7 調査結果

① 水質階級別調査地点数

調査地点（1 地点）においては、水質階級Ⅰ（きれいな水）と判定されました。（図1、表2-②）

② 指標生物の出現状況

県内の調査地点（1 地点）で最も多く出現した指標生物は、ヤマトビゲラ類（水質階級Ⅰの指標生物）及びミズカマキリ（水質階級Ⅲの指標生物）です。

また、指標生物は29種のうち、8種が観察されました。（表2-②）

③ 過去の調査結果との比較

今年度の調査地点（1 地点）は、前年以前に調査したことのある地点でした。

なお、平成12年度と平成25年度に調査方法が変更となっています。

（「川の生きものを調べようー水生生物による水質判定ー」環境省水・大気環境局 国土交通省水管理・国土保全局 編 H12.3、H24.3）

平成12年度から指標生物が16種から30種と変更になり、平成25年度からは指標生物が30種から29種と変更になったため、過去の調査結果を単純に比較することはできませんが、昭和60年からの水生生物調査結果をみると、県内河川の水質は、良好な状態に保たれています。（表3）



図1 水生生物調査結果等の概要

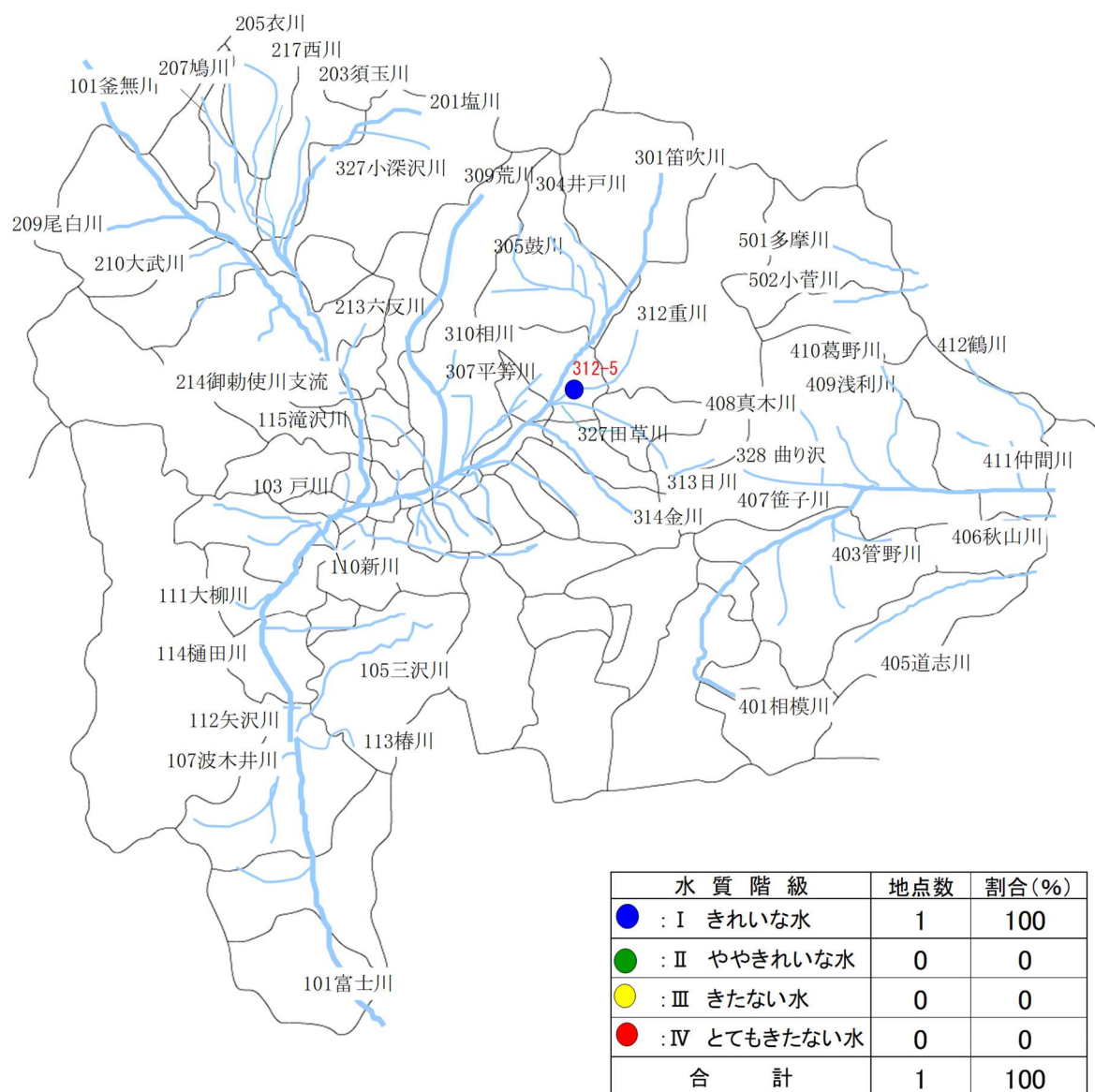


表 2－① 調査結果総括表

調査地点					調査団体名	調査		天気	水温 (℃)	川幅 (m)	生物採取場所	水深 (cm)	流れの速さ	川底の状態	水のおい	水にごり	環境基準 類型
河川名	調査地点名	地点番号	経度	緯度		日付	時間										
重川	重川橋	312-4	138.6831704	35.67076687	山梨市立山梨南中学校	7月23日	9時	晴れ	25.5	12	上流から見て左岸	23	普通(毎秒30～60cm)	こぶし大の石が多い	においは感じられない	透明またはきれい	B

表 2－②

	調査団体名	調査地点			水質 階級	Ⅰ（きれいな水）										Ⅱ（ややきれいな水）								Ⅲ（きたない水）						Ⅳ（とてもきたない水）					
		河川名	調査地点名	地点番号		アミ カ 類	ナミ ウ ズ ム シ	カワ ゲ ラ 類	サ ワ ガ ニ	ナ ガ レ ト ビ ケ ラ 類	ヒ ラ タ カ ゲ ロ ウ 類	ブ ユ 類	ヘ ビ ト ン ボ	ヤ マ ト ビ ケ ラ 類	ヨ コ エ ビ 類	イ シ マ キ ガ イ	オ オ シ マ ト ビ ケ ラ	カ ワ ニ ナ 類	ゲ ン ジ ボ タル	コ オ ニ ヤ ン マ	コ ガ タ シ マ ト ビ ケ ラ 類	ヒ ラ タ ド ロ ム シ 類	ヤ マ ト シ ジ ミ	イ ソ コ ツ ブ ム シ 類	タ ニ シ 類	ニ ホ ン ド ロ ソ コ エ ビ	シ マ イ シ ビ ル	ミ ズ カ マ キ リ	ミ ズ ム シ	ア メ リ カ ザ リ ガ ニ	エ ラ ミ ミ ズ	サ カ マ キ ガ イ	ユ ス リ カ 類	チ ョ ウ バ エ 類	
1	山梨市立山梨南中学校	重川	重川橋	312-4	I		○				○	●			○						○			○		●									
				出現地点数		0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
				出現数割合(%)		0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

表3 水質階級經年變化一覽表

[illegible]

水生生物による水質の調査方法

1. 調査に適した場所

- 水の深さはひざくらい（30cm 位）で、水の表面が波立つくらいの流れの速さ（30 ～ 40 cm/秒位）があり、川底にミカンからスイカくらいの大きさの石が多いところが適しています。
- 川の大きさは関係ありませんが、岸から少し離れたところで行うのが原則です。
- 川底が一面コンクリートの場所や、ヨシなどが川幅全体をおおっているような場所、水の流れのないところはさけましょう。

2. 調査する時期

- 水生昆虫の多い、春から夏にかけて適しています。
- 毎年調査しようとする場合には、同じ時期に同じ場所で調査するように決めておくと水質の経年変化がわかります。
- 雨が降って増水した場合は、危険ですし、生物が流されてしまっている場合があるので、雨の降る前の状態にもどるのを待ちましょう。

3. 調査のための用具

- 記録用紙、テキスト、鉛筆
- 温度計、ルーペ、ピンセット、バット（底が白く平らなバットが適しています）
- 受け網（目の粗さは1～2mm 程度が適しています）
- 長靴など（素足で川に入ることは危険です）

4. 水生生物の採取の仕方

- 受け網を使う方法
川の流れに向けて網を立て、網の前の石を手でなでたり、川底を足でかきまぜたりして、川底の虫を網の中に流し込みます。
網の中の生物を、あらかじめ水をはったバットの中に入れます。
 - バットを使う方法
川底の石をそっとバットの中に置き、石の表面にいる生物をバットの中に水で洗い落としたり、ピンセットで取ったりします。
- ※注意：見つけた虫は全部バットの中に集めましょう。
調査は3～5人を1グループとして行いましょう。

5. 生物の調べ方と判定

○バットの中の生物を虫めがねでよく観察し、どんな生物がいたか、何が多かったかなどを記録用紙に書き込みます。

○記録用紙をもとに、調査した地点の水質階級の判定をします。

○調査が終わったら観察した生物や石は川にもどしてあげましょう。

～ 記録用紙の記入例 ～

市町村名		学校(団体)名	
河川名		調査者名	

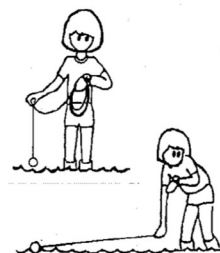
調査場所名(No.)		○△橋下流(1)	△△橋下流(2)	□□橋上流(3)
年 月 日 (時刻)		H25.8.27(13:20)	H25.8.27(15:20)	H25.8.27(11:30)
天気		くもり	くもり	くもり
水温(℃)		21.0	22.4	22.8
川幅(m)		5	8	8
生物を採取した場所		川の中心	左岸側	右岸側
才物採取場所の水深(cm)		15	15	20
流れの速さ		ふつう	はやい	おそい
川底の状態		頭位の石が多い	頭位の石が多い	拳位の石が多い
水のにごり、におい、その他		きれい	少しにごる	少しにごる
魚、水草、鳥、その他の生物		アユがいた		

水質 指標生物		見つかった指標生物の欄に○印、数が多かった上位2種類(最大3種類)に●印をつける											
きれいな水 水質階級Ⅰ	1.カワケラ類	○											
	2.ヒラタケグロウ類												
	3.ナカレトビケラ類	○											
	4.ヤマトビケラ類												
	5.アミカ類	○		○									
	6.ヨコエビ類												
	7.ヘビトンボ	●											
	8.ブエ類	○											
	9.サワガニ	●		○									
	10.ナミズムシ												
ややきれいな水 水質階級Ⅱ	1.コガタシマトビケラ類			●									
	2.オオシマトビケラ	○		○									
	3.ヒラ外ロムシ類			●									
	4.ゲンジホタル			○									
	5.コオニヤンマ			○									
	6.カニナ類	○											
	7.ヤマトシジミ												
	8.イシマキガイ												
きたない水 水質階級Ⅲ	1.ミスガマリ			○									
	2.ズムシ									○			
	3.タニシ類									○			
	4.シマイシテル									●			
	5.ニホンドロコエビ												
	6.イソコブムシ類												
とてもきたない水 水質階級Ⅳ	1.ユスリカ類										●		
	2.チョウバエ類												
	3.アメリカザリガニ												
	4.エラミズ												
	5.サカナキガイ										●		

水質階級		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
水質階級の判定	1.○印と●印の個数	6	2			2	5	1				3	2
	2.●印の個数	2					2					1	2
	3.合計(1.欄+2.欄)	8	2			2	7	1				4	4
	その地点の水質階級	I				II				III			

川の上流から下流を見て、
右手を右岸、
左手を左岸という。

おそい:30cm/秒以下
ふつう:30~60cm/秒位
はやい:60cm/秒以上



<流速の測り方>

見つかった生物は、○印を記入する。
そのうち、最も多く見つかったものと
2番目に多く見つかったものは、●印
を記入する。
もしも、3種類がほとんど同じくらい
の数であれば、3番目まで●印を記入
する。

合計が同数の場合、数字の少ない方の
水質階級をその場所の水質階級とします。

合計が最も大きい数を取る。

指標生物の図

1 きれいな水（Ⅰ）の指標生物 NO.1 ～ NO.10

NO.1 カゲラ類



NO.2 ヒラタゲムシ類



NO.3 ナガレヒゲラ類



NO.4 ヤマトヒゲラ類



NO.5 アミカ類



NO.6 ヨコヒゲ類

冊子（川の生きものをしらべよう）



NO.7 ヘビトンボ



NO.8 ブユ類



NO.9 サガニ



NO.10 ナミズムシ



2 ややきれいな水（Ⅱ）の指標生物 NO.11 ～ NO.18

NO.11 コガタシマトヒゲラ類



NO.12 オシマトヒゲラ



NO.13 ヒラタロムシ類



NO.14 ゲンジボタル



NO.15 コオニヤマ



NO.16 カリナ類



NO. 17 ヤマトジミ



NO. 18 イシカガイ



3 きたない水（Ⅲ）の指標生物 NO. 19 ～ NO. 25

NO. 19 ミズカマキリ



NO. 20 ミズムシ



NO. 21 タニシ類



NO. 22 シマイシビル



NO. 23 イソコツムシ



NO. 24 イソコエビ



4 とてもきたない水（Ⅳ）の指標生物 NO. 26 ～ NO. 29

NO. 25 ユスリカ類



NO. 26 チョウバエ類



NO. 27 エラミズ



NO. 28 サマシカガイ



NO. 29 アメリカザリガニ



（出典：国立環境研究所ホームページ、環境省・全国水生生物調査のページ・川の生きものを調べよう）